

令和7年度改訂

授業研究

# 大島の教育

## Pamphlet 3

～教師の授業力向上に向けて～



【Canva AI で作成】

# 大島教育事務所

# 目次

はじめに	1
I 鹿児島県の教員に求められる資質	1
II 全国教員研修プラットフォーム (Plant)	2
III 授業研究の目的	3
IV 授業研究会の実際	4
1 子供の学びの姿 (事実) に着目した授業研究会	4
2 教員の指導方法に着目した授業研究会 (ワークショップ型授業研究)	5
〔ワークショップ型授業研究におけるワークシート例〕	6
3 同僚性・協働性を高める全体授業研究	7
V 「授業充実の3ポイント」の具体化と授業参観の視点	8
VI 授業研究や校内研修の情報はこちら!	9
【引用・参考文献】	10

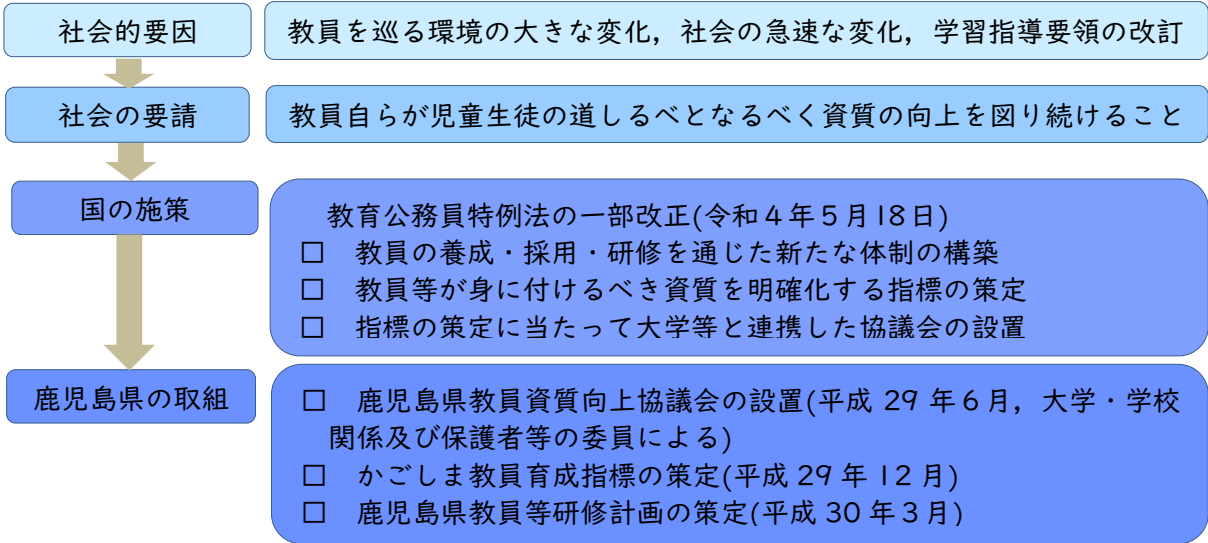
# はじめに

主体的に学び続ける教師の姿は、児童生徒にとって、有益なロールモデルです。授業を通じた授業スキルや指導力の向上を目的に本パンフレットを改訂しました。校内研修等で必要に応じて御活用いただけたら幸いです。

## I 鹿児島島の教員に求められる資質

### I 1 かがしま県教員等育成指標（以下、育成指標）の活用

#### (1) 育成指標策定の背景



#### (2) 育成指標の見方

「今の自分に必要な資質は何か」、「今後、どのような資質を高めていけばよいか」等，教師としての自分の目標を設定するときや，今後，目指すべき資質を明らかにするとき役に立てられるよう，キャリアステージに応じて身に付けるべき資質を「見える化」したものが育成指標です。

### ステージ別資質向上指標（教員等） R5年4月（全面改訂）

<p>人権尊重の精神を基盤とした教育を実践するために、年齢や経験等に関係なく誰もが身に付けておくべき資質として位置付けられています。</p>	<p><b>ア 必要となる資質</b></p> <p>鹿児島島の教員等として</p>	<p>教育公務員としての崇高な使命感・職責感・倫理観を自覚し、学校及び教職の意義・社会的役割・服務等を理解するとともに、郷土のよさを認識しながら、新しい時代における教育や学校教育を取り巻く国内外の環境の変化に合わせて常に学び続け、自らの学びを振り返りつつ、専門性を主体的に高めることができる。</p>					
		<p>児童生徒のよりよい未来の実現に向けて、人権教育を基盤とした教育における信念や愛情など豊かな人間性をもち、円滑なコミュニケーションを取りながら、児童生徒や他の教職員、保護者、地域住民等と持続可能な信頼関係を築くことができる。</p>					
<p>求められる資質として、  <input type="checkbox"/> 学習指導  <input type="checkbox"/> 生徒指導  <input type="checkbox"/> 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応  <input type="checkbox"/> ICTや情報・教育のデータの活用          の4項目が設定されています。さらに、それぞれの資質に具体的な細目を設定し、キャリアステージに合わせて資質を積み上げるイメージで定めています。</p>	<p><b>イ 学習指導</b></p>	<p>学校組織マネジメントの意義を理解し、拡大・多様化する学校の役割に対応するために、郷土の教育的資源や限られた時間を効果的・効率的に用いつつ、学校運営の持続的な改善を支えられるよう、校内における自らの役割を理解して校務に積極的に参画し、学校や学級等の課題をチームとして解決しようとする事ができる。</p>					
		<p>自身や学校の強みや弱みを理解し、自らの力だけでできないことを客観的に捉え、組織の一人として家庭・地域等も含めた他者と協働したり、課題解決に努めたりする姿勢を身に付け、自らの資質向上に努めようとする事ができる。</p>					
		<p>学校管理下で起こる事故や災害等について学校全体で危機意識を共有し、未然防止に努めるとともに、様々な場面に対応できる危機管理の知識や視点を持ち、発生時の安全管理・危機管理について理解し迅速に行動することができる。</p>					
		<p>ステージ</p>	<p>養成期 (採用前)</p>	<p>ステージⅠ 目安経験年数(1~5年経験)</p>	<p>ステージⅡ 目安経験年数(6~10年経験)</p>	<p>ステージⅢ 目安経験年数(11~20年経験)</p>	<p>ステージⅣ 目安経験年数(21年経験~)</p>
		<p>関係法令及び学習指導要領における目標や内容等を理解している。</p>	<p>○ 児童生徒の学習意欲を引き出す指導力を培い、個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けた授業改善に取り組むことができる。</p>	<p>○ 児童生徒の身近な社会・生活につながるような単元を構想し、個別最適な学びや協働的な学びの充実を図ることができる。</p> <p>○ 校内研究会の企画・運営に積極的に携わることができる。</p>	<p>○ 新しい指導方法を効果的に取り入れ、他の教員に提案性のある授業を行うことができる。</p> <p>○ 校内研究会・校外研修会の企画・運営の中心となつて、校内研究体制の推進を図ることができる。</p>	<p>○ 学力向上や授業改善、授業評価などの視点を常にもち、授業提案を通して、学年や教科の授業改善をリードすることができる。</p> <p>○ 学校全体の学習指導上の諸課題を把握し、カリキュラム・マネジメントの中心として組織的に実践を進めることができる。</p>	

過去の実績を振り返るとともに、管理職からの助言等を参考にして、項目ごとに自分のキャリアステージを設定（確認）しましょう。

# Ⅱ 全国教員研修プラットフォーム (Plant)

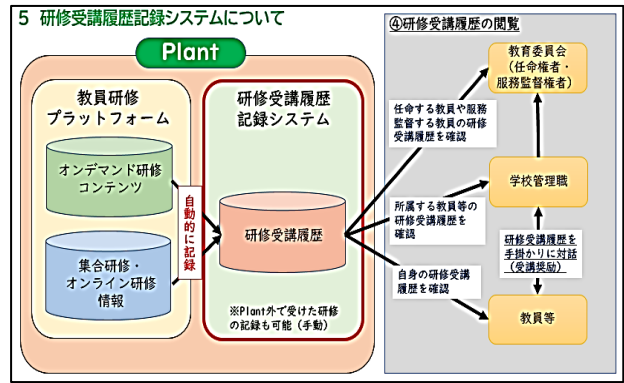
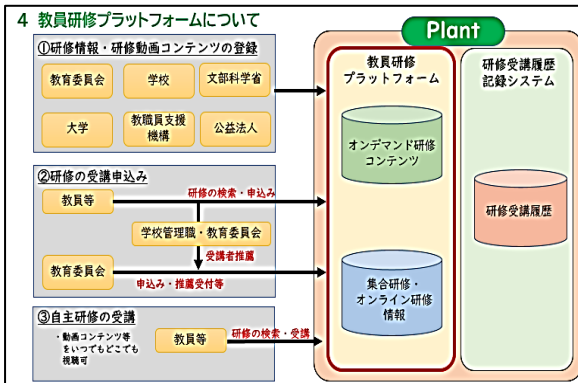
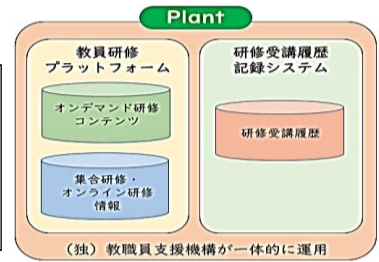
## Ⅰ 全国教員研修プラットフォーム (通称「Plant (プラント)」とは

令和3年11月の中央教育審議会審議まとめにおいて示された、「新たな教師の学びの姿」の実現に向けて、「研修受講履歴記録の作成」、「研修受講履歴」等を手がかりとした資質向上のための対話と奨励が、昨年度より制度化されています。その効率的・効果的な実現に資するよう、研修の受講や受講履歴記録の作成を一元的に行うことができる「全国教員研修プラットフォーム (Plant)」を文部科学省が構築し、令和6年4月より独立行政法人教職員支援機構 (NITS) で運用管理が行われています。



## 2 Plant の概要について

Plant は右図のとおり、オンデマンド研修コンテンツ及び研修情報からなる研修受講履歴記録システムを一体的に運用します。なお、Plant を運用する教職員支援機構が、先生方のアカウント情報や受講履歴を閲覧することはありません。



- ### <教員研修プラットフォーム>
- ① 研修主催者である様々な機関・団体等が、集合研修やオンラインの研修、オンデマンドの研修コンテンツを登録することができます。
  - ② 表示された研修から教員等が研修の申込みを行うことができます。研修主催者の受講の許可や推薦が必要な研修については、その手続きも Plant 内でできることから、ワンストップで研修の受講が可能となります。
  - ③ Plant 内に動画コンテンツもあるので、自主研修として見ることもできます。

### <研修受講履歴記録システム>

プラットフォームで受講した研修の修了判定が行われたら、研修履歴が自動的に記録されます。また、Plant に登録されていない研修の記録は手動で行うことになります。ここで記録された研修受講履歴は、任命権者である教育委員会、学校管理職、教員等がそれぞれ閲覧することができます。また、管理職はこの記録を参考に、受講奨励を行うことになります。

**備考**

- Plant は各教員の個別最適な学びや協働的な学びを実現するためのものです。主体的に資質を高めることができるよう活用します。
- Plant の機能を活用すれば、研修の効率化も図ることができます。

### Ⅲ 授業研究の目的

授業研究とは

「一人一人の子どもの学びや成長を促すための教師の学びや成長を支える研修システム」

授業研究の目的	(1) 授業での児童生徒の思考過程を理解する。	[児童生徒理解]
	(2) 授業での教師の判断・意思決定を学ぶ。	[授業計画]
	(3) 授業での効果的な発問・応答・板書の仕方を学ぶ。	[授業スキル]
	(4) 議論をとおして授業観・教材観を学ぶ。	[教材解釈・教材開発]



授業研究会は、全ての参加者に指導方法や児童生徒理解に関する様々な気づきを促す。

授業のねらい（目標）が達成できたかどうかは、児童生徒の変容（観察やノート等を含む）を見ることが判断できます。「児童生徒が何をどのように学んだか」を授業の様子と照らし合わせて観ることで、「教師の指導方法はどうか」「教師の指示の出し方や発問は的確だったか」などを教科の枠を越え、同僚と語り合うことが重要です。

#### 「児童生徒の学ぶ姿」から見えるもの

- 本時のねらいは適切であったか。
- 教材研究は十分であったか。
- ねらい（目標）を達成するための手立ては適切であったか。
- 児童生徒の実態に合う学習内容であったか。
- 児童生徒への指示の内容と方法は適切であったか。
- 教えるべきところと児童生徒に気付かせるところの区別が適切になされていたか。
- 児童生徒の評価の内容と方法は適切であったか。

#### 授業研究会の充実に向けて

##### 深まりのある授業研究会にするために

- 観察する児童生徒や観るポイントを明確にする。
- 話合いのルールを決めておく。

##### 協議を充実させるために

- 話し合う視点（テーマ）を明確にする。
- 改善策を話し合う時間を設定する。

##### 各自の実践と結び付けるために

- 個人として今後実践したいことを明確にする。
- 全体で「共通実践事項等」を決める。

## Ⅳ 授業研究会の実際

授業研究会には、そのねらいに応じて様々な方法、形態が考えられますが、以下で代表的な例を紹介します。

### 1 子供の学びの姿（事実）に着目した授業研究会

子供や教師の発言や行動、学習課題や活動内容の事実を客観的に記録し、目指す子供の姿に迫れているかを分析します。さらに、子供の立場になって「何が分かり、何ができたか。」「どのような手立てがあれば、目指す子供の姿に迫れたかを話し合います。



#### 進め方例 [180分の場合]

1 研究授業の参観しワークシートへの記入 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業の中核(子供の言ったことや行ったこと、教師が言ったことや行ったこと、学習課題や活動内容の事実)を記録する。</li> <li>○ 観察時の注意事項(どこで観察すれば事実を捉えられるか)</li> </ul>	
2 協議の視点の確認 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>A 学校の実践上の課題は何か(学校レベルで解決に取り組みたいこと)</li> <li>B 目指す子供の姿は何か(解決したい(された)子供の姿)</li> <li>C 目指す子供の姿に向けた手立ては何か(解決策の見通し)</li> <li>※ その他、学校で取り組んでいることや課題、授業者の思いや願い、悩みなど。</li> </ul>	
3 事実の確認 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 2のA, B, Cに関連する授業の記録を観察ワークシートから選び、付箋紙に書き起こす(付箋紙は後から加筆できる)。(色分け例)赤:教師, 青:子供, 黄:内容</li> <li>※ 付箋紙には、推測及び評価は記入しない。</li> <li>② グループで模造紙等に付箋紙を貼って、観察結果を共有する。</li> </ul>	
4 記録の整理分析 (50分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 青い付箋紙について、目指す子供の姿に迫ることができていた様子(○)と迫ることができていなかった様子(△)を確認する。</li> <li>② 目指す子供の姿に迫ることができていた様子を共有し、類型化する。(類型化例) 学校の実践上の課題に関わる発言や行動が見られた子供の姿</li> <li>③ 目指す子供の姿に迫ることができていた様子に関連する付箋紙を共有し、類型化する。(類型例) 課題設定の手順(☆), 学習のルール(◇), または, ☆や◇の関係構造等</li> <li>④ 目指す子供の姿に迫ることができていなかった様子を類型化する。(類型化例) 目的をつかめていない子供の姿等</li> </ul>	
5 子供の立場に立った協議 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 感情面を含めて子供になりきり、以下について考えを話し合う。</li> <li>② 4の③と目指す子供の姿に向けた手立てを比べて、効果的だったかを検証する。</li> <li>③ 必要な手立てや支援、配慮について、直接的な声掛けや発問といった指導や、環境設定といった間接的な指導等まで含めて考える。</li> </ul>	
6 改善策等の共有 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 協議を踏まえて今後の展望を考える。</li> <li>○ 提言や共通実践事項(短期・長期)をまとめる。</li> <li>※ 提言用ワークシートは大判印刷にしたり、模造紙に線を引いたりする。</li> </ul>	
7 まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共通実践事項等を踏まえ、研修の指導助言者や担当が総括する。</li> </ul>	

※ (県総合教育センター令和3年4月) 指導資料「校内研修 第9号」を参考にして作成

## 2 教員の指導方法に着目した授業研究会（ワークショップ型授業研究）

ファシリテーター（進行・まとめ役）のリードで得られる新たな気づきや見方・考え方の深まりなどを重ね合わせながら、協働を通して課題を解決していく授業研究のこトです。全体研修や数人での教科研修、学年部研修などで幅広く活用されています。



### 進め方例 [60分の場合]

1 進め方の説明 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業者、指導者等の紹介、ワークショップの流れ及び時間等を説明する。 ※ 協議のテーマは、具体的で焦点化されたものが望ましい。</li> <li>○ 参加者は、事前配布資料（授業参観シート等）で協議のテーマや授業参観の視点を確認し、視点に沿って授業参観を行うようにする。</li> </ul>
2 授業者の説明及び授業反省（5分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業者が、授業展開の意図や意見をもらいたい点、授業の反省点などについて説明する。</li> </ul>
3 研究協議 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループで授業を分析し、課題改善策について協議する。 [グループ協議の流れ]</li> <li>① 視点に沿った授業参観を行い、気付いたことを付箋紙にメモしていく。(5分)</li> <li>② 一人ずつ授業を見た感想や自分の考えを述べながら記入した付箋紙をワークシートに貼っていく。(5分) ※ ワークシートは次ページを参照 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 付箋紙の貼付：参加者が授業の「よかった点（青）」「改善点（赤）」について自分の考えを述べながら貼っていく。</li> </ul> </li> <li>③ 「よかった点」、「改善策」等の付箋紙を内容別に仲間分けし、ラベリングを行う。(10分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラベリング：付箋紙をまとまりごとに整理し、それぞれにタイトルを付ける。</li> </ul> </li> </ul>
4 協議内容の共有 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各グループの代表が、授業の「よかった点」や「改善策」についてグループで出された意見を紹介する。 ※ 各グループ2分以内で発表する。 ※ 司会者は、発表内容が重複している場合、割愛するよう指示をする。</li> </ul>
5 改善策等の共有化 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各グループから紹介された改善策等について、全体で授業者への質疑・応答や意見交換を行ったり、自校の取組と比較したりして、今後の取組の方向性について考える。</li> </ul>
6 授業者のリフレクション (2分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究協議の内容を受け、授業者自身が今日の授業を振り返り、改めて気付いた点や感じていることなどについて述べる。</li> </ul>
7 まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 協議のまとめを研修係、管理職、指導主事が行う。</li> </ul>



## 【ワークショップ型授業研究におけるワークシート例】

分析の視点の明確化や作業の効率化を図る上で、ワークシートをどのような形にするかは重要です。協議の目的に応じて効果的なシートとなるよう、以下を参考に工夫しましょう。



### (1) マトリクス型

	目標の明確化	山場の工夫	確かめ・見届け
成果			
課題			
解決策			

#### 【特徴】

- ・ あらかじめ設定した視点についての成果と課題及び改善策を協議したい場合に適しています。
- ・ 全員で改善策まで考える形式になっているので、グループ内の全員に発言の機会を与えることで、今後の実践につなげやすくなります。

#### 【留意点】

- ・ 同じ内容に対して評価が分かれる場合は、付箋紙の置き方を工夫すると意見の相違点が明確になります。

### (2) 時系列型

	主な学習活動	指導上の留意点	評価
導入			
展開			
終末			

#### 【特徴】

- ・ 学習指導案と実際の授業を対比しながら成果や課題を明らかにする研修に適しています。

#### 【留意点】

- ・ 意見が出やすい反面、意見の分類に時間を要します。視点を明確にして記入すると効率的です。

### (3) 四象限型

		よかった点	
児童生徒	教材・教具		
	学習規律		
教師	発問		
	個人差		
		改善点	
児童生徒	意見の取り上げ方		
	個人差		
教師	発問		
	教材・教具		

#### 【特徴】

- ・ 教科等部会で検討する場合や授業の全体を捉えたい場合などに適しています。
- ・ 横軸は、児童生徒の姿と教師の指導、あるいは検討の視点を、縦軸はよかった点と改善点とします。

#### 【留意点】

- ・ グループによって協議の深まりの差が大きくなるため、協議の柱や視点を明確にしておく必要があります。

### 3 同僚性・協働性を高める授業研究会

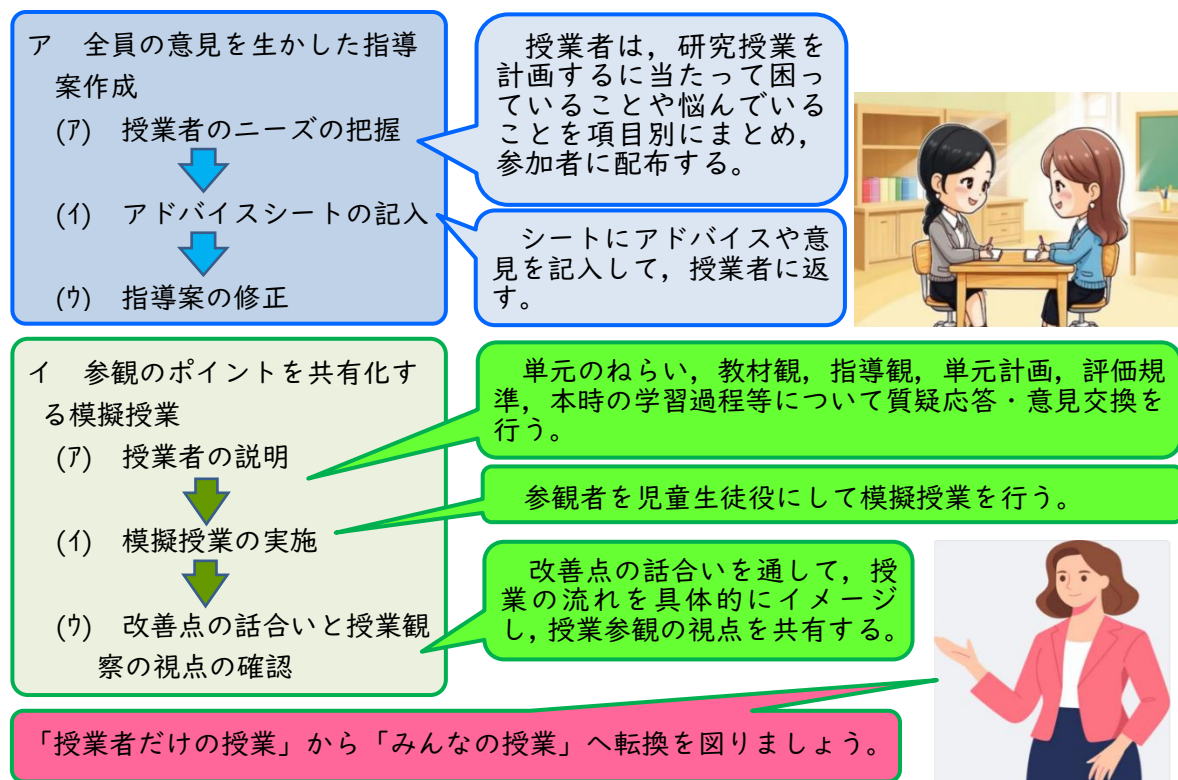
ここで言う「同僚性」とは、同僚同士が知識や経験を基に話し合いながら、相互に求められる脂質・能力を高めていけるような関係を指します。また、「協働性」とは、お互いのよさを理解し、それぞれに適する役割を担って教育活動を行っていく態勢を意味します。

一人で行う授業研究は基本となるものですが、児童生徒に確かな学力を身に付けさせるためには、管理職の指導の下、同僚と協働しながらチームで取り組んでいく必要があります。

#### (1) 事前検討会

授業者が他の教職員からヒントやアドバイスをもらえるようなシート（アドバイスシート）を作成し、情報を集めることから始めましょう。経験や年齢、指導観などの異なる立場からの意見を聞くことで、授業の構想や展開、評価等の考え方を広げることができます。

また、授業者と参観者が一緒に事前研究を行うことで、全員で一つの授業をつくり上げていくという意識をもつことができ、授業参観のポイントも明確になり、協議内容も焦点化していくことができます。



#### (2) 自由参観型の授業参観

自主的に授業を公開し合い、お互いの授業を自由に参観し合い学び合うことが大切です。

ア 授業提供者は、参観者に対して「授業のこんなところを見てほしい」などの参観の視点を事前に示すことで、授業提供者のニーズに応じた意見をもらうことができます。

イ まとまった参観の時間が取れない時は、導入部分のみ、あるいは板書のみを参観するなどのポイント参観を行い、放課後等にミニ授業研究を行うことで、日常的な授業研究につながる事が期待されます。



## V 「授業充実の3ポイント」の具体化と授業参観の視点

3ポイント	主な学習活動	教師の具体的な働き掛け	授業参観の視点
目標の明確化	1 興味・関心が高まる導入	○ 効果的な教材教具の活用 ・ モデル(よいモデルや改善の余地のあるモデルなど)を提示する。 ・ ICTを効果的に活用する。	□ 興味・関心が高まっているか。
	2 課題(問題)意識の焦点化	○ 焦点化を図る「もう一手」の挿入 ・ 事象提示,「試しの活動(実際に問題を解く,実演など)」「既習事項との比較」等で気付かせる。 ・ 矛盾する点に着目させるなど,探究心が高まる発問をする。	□ 課題(問題)意識が焦点化されているか。
	3 学習課題(問題)・めあての設定	○ 問題解決的な学習するためのめあての設定	□ 「分からないこと」「知りたいこと」を基に,学習問題(課題)・めあてを設定しているか。
	4 課題解決の予想と見通し	○ 教師と児童生徒,児童生徒間におけるゴールイメージの共有 ・ 課題に応じた学習形態(個,ペア,グループなど)を設定する。 ・ 解決の方法や順序を見通す機会を設定する。	□ 課題解決に向けて予想したり,見通しをもったりすることができているか。
山場の工夫	5 自力解決による最初の考え(仮説)の構築	○ 最初の考えを可視化する活動の設定 ・ 「書く活動」を設定する。 ・ 考えに理由を添えるように助言する。	□ 自力解決を促す手立てが取られているか。 □ 考えの根拠が明確であるか。
	6 考えの共有(学び合い)	○ 対話活動の設定 ・ 互いの考えの比較,分類,関係付けなどに向けた声掛けをする。	□ 自分に最適な学び方(使用する道具・学習形態・学習時間等)を選択・決定しているか。
	7 自力解決による最終的な考えの構築	○ 最終的な考えをまとめる活動の設定 ・ 「書く活動」を設定する。 ・ 考えに理由を添えるように助言する。	□ 考えの共有(学び合い)を通して,お互いの考えが変容しているか。 □ 児童生徒の自力解決を促す手立てが取られているか。
確かめ・見届け	8 学習のまとめ	○ めあてと対応したまとめの板書	□ 児童生徒の考えや言葉が反映されているか。
	9 習熟	○ 個に応じた習熟・応用・演習問題の活用(AIドリル)等の実施	□ 本時で「分かったこと」や「できるようになったこと」を踏まえて習熟できているか。
	10 振り返り(自己評価,相互評価)	○ 自分の考えが変容した過程について振り返る活動の設定 ・ どのような理由で考えが変容したか(他者の意見で,対話で,作品等を見てなど)を確認させる。	□ 考えが変容(強固・付加・修正)した過程や変容の理由を述べているか。 □ 学び方について振り返っているか。

## VI 授業研究や校内研修の情報はこちら！

ニーズ	授業研究や校内研修に関する情報	二次元コード
★ 最新の「学びの羅針盤」を見たい	学びの羅針盤 (R7 改訂版) 県教育委員会	
★ 校内研修の更なる充実を図り、教員の資質能力の向上を目指したい	『校内研修シリーズ』 NITS	
★ 「主体的」「対話的」「深い学び」に分類する演習を行う校内研修で、使用できる資料をダウンロードしたい	『主体的・対話的で深い学びの3つの視点を養う』 NITS	
★ 校内研修についての動画が見たい	『「主体的・対話的で深い学び」を見取り、実現する校内研修：校内研修シリーズNo.58』 NITS	
★ 子供の学ぶ姿を見取りながらの授業研究について知りたい	『授業者も参観者もみんな授業力向上！～子供の姿に着目した授業研究～』校内研修 第8号 県総合教育センター	
★ 校内研修の指導資料を見たい	『新たな時代において「学び続ける教職員集団」を目指す授業研究の在り方に関する一考察』第9号 県総合教育センター	
★ 子供の学ぶ姿を見取る校授業研究の進め方について知りたい	『子供の姿を授業記録等から捉え直し資質・能力のイメージを共有する』 NITS	
★ R6大島の教育パンフレット(改訂版)を参考にしたい	大島教育事務所	
★ 校内研修の進め方について知りたい	『授業力を高める校内研修の進め方 —「みんなで取り組み、学び合う授業研究」を通して—』 県総合教育センター「調査研究」	
★ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につなげるための「研修プラン」を提案する動画教材が欲しい	『授業を伴う研修(研修プランA)』 『授業を伴わない研修(研修プランB)』 NITS	
★ ワークショップ型研修会について知りたい	『みんなで取り組み、学び合う授業研究～授業力やチームワークの向上を目指して～』 県総合教育センター	

### 【引用・参考文献】

- 「みんなで取り組み，学び合う授業研究～授業力やチームワークの向上を目指して～」  
平成 23 年 鹿児島県総合教育センター
- 「かごしま教員育成指標」  
平成 29 年 鹿児島県教育委員会
- 「授業力を高める校内研修の進め方～みんなで取り組み，学び合う授業研究を通して～」  
平成 26 年 鹿児島県総合教育センター
- 「全国教員研修プラットフォーム『P l a n t 』」について  
令和 7 年 独立行政法人教職員支援機構
- 「授業研究」を創る 教師が学び合う学校を実現するために  
平成 29 年 教育出版社
- 「新しい研究授業の進め方」  
令和 4 年 東洋館出版社
- 「仲間と見合い磨き合う授業研究の創り方」  
令和元年 東洋館出版社
- 「学びの羅針盤」  
令和 7 年 3 月 鹿児島県教育委員会

